



静岡社会健康医学大学院大学

SHIZUOKA GRADUATE UNIVERSITY OF PUBLIC HEALTH

アニュアルレポート 2023

ANNUAL REPORT 2023



Contents

- 1 | 学長メッセージ
- 2 | 世界の健康を牽引する大学を目指して
- 4 | 運営の体制
- 5 | 高度専門人材の育成
- 7 | プロジェクト研究
- 10 | 地域産官学連携
- 15 | 成果の還元
- 18 | 地域との結びつき
- 19 | ダイバーシティ
- 22 | 財務状況等
- 26 | キャンパス紹介
- 27 | 基礎データ
- 28 | 論文及び学会等発表一覧

学長メッセージ

静岡SPHモデル構築をめざして

私たちの静岡社会健康医学大学院大学（略称：静岡SPH；School of Public Health）は約5年間の準備期間を経て2021年春に開学し、2024年3月には修士二期生を送り出す運びとなりました。この3年間、静岡県の一とかならぬご支援と教職員一丸となったたゆまぬ努力、そしてなによりも真摯な院生諸氏のひたむきな修学姿勢の賜物として、本学は想定以上に順調な発展を遂げてきたと自負しています。

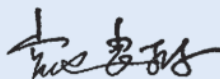
本学は建学の趣旨から他大学とは異なる出自を有しています。もちろん大学院大学として世界最先端の研究をめざすことはいうまでもありませんが、当初から研究成果の地域・社会への還元と健康長寿延伸を担う高度専門人材の育成を基本理念に掲げてきました。そのため、市町をフィールドとしたコホート研究や静岡国保データベース(SKDB)を最大限活用したビッグデータサイエンスの構築など積極的に社会に視野を広げて地域に足を踏み入れ、学問の殻に閉じ込められることのない「あたらしい大学のかたち」を模索してきました。静岡県からの指定課題に取り組み、多くの自治体のアドバイザーなどを務めることで地域社会への実装を志向するのが私たち独自の静岡SPHモデルです。

公衆衛生学はこれまでも集団の生命と健康を守るために科学的根拠に基づく研究を通じて社会貢献に尽力してきました。図らずもコロナパンデミックは人々に公衆衛生学の重要性を再認識させたのではないかと思います。社会健康医学は従来の公衆衛生学にデータサイエンスやゲノムコホート研究などの領域横断的・学際的領域を加えたあたらしい学問体系ですが、その底流には、研究成果を人々にわかりやすく伝えるヘルスコミュニケーションや健康政策に介入する「行動する公衆衛生学」という思想が具現されています。私たちはまさにその「行動する公衆衛生学」を指向した静岡SPHモデルを是非自分たちの手で構築したいと念じています。

ここに開学後はじめての年次レポートを刊行することができました。静岡SPHモデルをめざす私たちの熱い意思を肌で感じていただき、ぜひ引き続き本学に対するご理解と力強いご支援を賜れば、それが教職員・院生にとってなによりのさらなる成長のためのエネルギーとなります。どうぞ今後とも静岡SPHをくれぐれもよろしくお願いいたします。

令和6年3月

静岡社会健康医学大学院大学
学長・理事長



世界の健康を牽引する大学を目指して

基本理念

健康と医療、環境を統合する俯瞰的な視点を機軸とし、
健康寿命の延伸に資する教育研究を通じ、
国際社会に貢献する「知と人材の拠点」を目指します。

基本方針

POINT



高度専門人材の育成

社会健康医学の学識を社会に還元し、医療・保健・福祉の現場でその向上に貢献できるプロフェッショナルな人材を育成します。

POINT



最先端の研究

臨床・予防医学の高度化、健康増進・疾病予防対策の最適化に資する最先端の疫学研究、ゲノム医学研究、医療ビッグデータ解析に取り組みます。

POINT



成果の社会還元

研究成果の社会実装を積極的に進め、幅広い視点から人類の健康増進や疾病予防に貢献します。

校章



静岡社会健康医学大学院大学から世界に羽ばたく人材を、医療の「医」の旧字「醫」の草書体をモチーフに、鳥の形にデザイン。その中心部には、ハートが隠されており、社会健康医学が人々の健康と福祉の向上を図るための学問であることを表している。清潔感のあるブルーのグラデーションで、成長・発展を表現。

中期目標・中期計画

中期目標・中期計画（2021年度～2026年度）は、本学の社会に対する「公的な約束」であり、次の3項目を重点的な目標に位置付けています。この中期目標の達成に向けて、着実に中期計画を実行していきます。

- 1 社会健康医学の学識を社会に還元する人材や社会健康医学を継続的に研究する人材の育成
- 2 社会健康医学研究の長期かつ継続的な推進
- 3 社会健康医学研究の成果の地域への還元

また、毎年度、中期計画の取組状況について自己点検・評価を実施・公表することで、社会に対する説明責任を果たし、皆様の理解と信頼の獲得に努めます。

中期目標・中期計画全文
<https://s-sph.ac.jp/disclosure/corporate/plan/>

各取組の実現に向けた役員体制

(2023年度末現在)

宮地 良樹
理事長兼学長

中山 健夫 副理事長(教育研究担当)
(京都大学大学院医学研究科教授・
京都大学医学部附属病院倫理支援部部長)

伊藤 裕 副理事長(将来構想担当)
(慶應義塾大学予防医療センター特任教授・
慶應義塾大学名誉教授)

芦川 敏洋 理事(総務担当)

浦野 哲盟 理事(教育研究担当)
(浜松医科大学特命研究教授・
十全オアシスクリニック院長)

後藤 康雄 理事(経営担当)
(はごろもフーズ(株)代表取締役会長)

渡邊 高秀 監事(弁護士)

吉村 峰仙 監事(公認会計士・税理士)

運営の体制

組織図



高度専門人材の育成

「知と人材の拠点」を目指して

■ 教育課程の充実

静岡社会健康医学大学院大学では、社会健康医学の最先端で未解明の課題に果敢に取り組む研究者の育成に向けて、2023年度に「社会健康医学専攻博士課程」を開設しました。定員2名に対して、初年度は、本学修士課程修了者を含む6名を受け入れ、新課程をスタートしています。

修士課程では、聴覚・言語分野に特化した「聴覚・言語コース」を開設しました。修了後は、研究者として本分野の第一人者となり、医療関係者においては、診療内容の質の向上、新知見の発信などの社会還元、保健福祉関係者においては、現場での指導的立場となることが期待され、聴覚障害児の障害軽減につながることも目指します。

また、2024年度に、「認定遺伝カウンセラー」を養成する「遺伝カウンセラー養成コース」を新設します。「認定遺伝カウンセラー」は、様々な分野で遺伝医療やゲノム医療等の推進に不可欠な人材として、活躍が期待されます。

これらの教育課程の設置に伴っては、専任教員も6名増員し、大学全体の教育研究体制のさらなる強化を図っています。



■ 教育環境の整備

開学時からオンライン環境を積極的に整備しており、遠隔による授業や教育研究指導を行うことを可能としています。これにより、本学に通う多くの学生が仕事と学業の両立を実現しています。



■ 図書館

24時間利用可能な本学図書館は、公衆衛生学の5つのコア領域を中心に教育研究に必要な選書を揃えています。また、電子ジャーナル・データベースは約4,000タイトルを収載しています。

2023年度は、学術リポジトリの開設に向けた活動を中心に、本学教員・学生の研究環境の整備に取り組みました。



聴覚・言語コース

2023年4月、修士課程に「聴覚・言語コース」を新設しました。聴覚・言語領域には、博士課程1名、修士課程1名の耳鼻咽喉科専門医でもある学生2名を迎えました。教員は、教授2名、講師1名、非常勤講師2名体制となります。

招待講演

高木明,「内耳の電気刺激(人工内耳)による音声言語獲得」,NTT2023オープンハウス

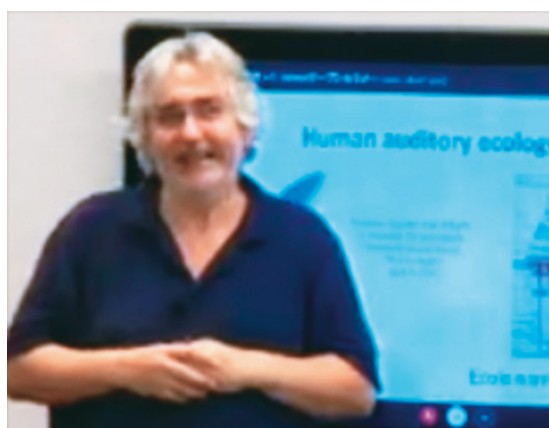
オープンセミナー

「音響環境に適応するヒトの聴覚」,2023年8月23日 大学会議室

Extending human auditory ecology to the perception of natural soundscapes by humans in rapidly-changing environments. Prof. Christian Lorenzi (Ecole normale supérieure, Paris)

国際学会発表

J.Hollowell, A.Takagi:Challenges for and benefits of early hearing detection and intervention information system (EHDI-IS) implementation. 14th Asia Pacific Symposium on Cochlear Implant and Related Sciences (APSCI 2023 Seoul), Nov. 8-11, 2023, Seoul, Korea.



Open seminar



聴覚心理実験

遺伝カウンセラー養成コース

「遺伝」は、従来は、ごく一部の限られた疾患が対象でしたが、近年は、医療の幅広い現場に続々と実装化され、医療の中の重要な分野となりつつあります。更に近い将来には、臨床の分野にとどまらず、疾患の予防や超早期介入にも有用となる可能性を秘めています。一方で、個人の遺伝情報は究極の個人情報であり、その特性を理解して取り扱う必要があり、その人材が求められています。

令和6年度に新たに開講する遺伝カウンセラー養成コースでは、遺伝にまつわる医学的のみならず、社会的、心理的な問題にも対応できる人材を輩出することを目的としております。

2年の間に、遺伝にまつわる諸問題に対して、独自の視点での研究を支援してまいります。

ゲノムコホート

県内の地域住民を対象とした健康追跡調査（コホート研究）を行い、病気の予防に役立つ成果を生み、誰もが健やかに長生きできる社会を目指します。

およそ5年おきに同一の個人に調査をお願いし、長期間にわたる健康状態を記録します。最先端のゲノム科学（ヒト遺伝子情報を網羅的に調べる手法）を取り入れ、生まれ持った体質に応じた予防医学の発展に貢献します。継続的に記録保管されたデータと検体は、現在そして次世代の研究者が質の高い研究を行う基盤となります。静岡県民の健康を支える貴重な財産といえます。

地域住民と研究協力者の参加を募る研究過程そのものにも意義があります。健診の説明会・ニュースレターを通して、健康意識を高めます。本事業は県内外の大学・研究機関・企業や県内自治体との共同事業であり、各団体間の交流を通じた研究発展と施策の改善につながることも期待されています。



年度	地区	参加人数
2021	賀茂	402
2022	賀茂	1287
2023	袋井市	1854



コホート調査 （ふくけん!健診ミニ）の 実施

- 2023年5～12月にかけて、袋井市の総合検診に相乗するスタイルでコホート調査「ふくけん!健診ミニ」（全17回）を実施し、966名の参加者を得ました。健診ではサルコペニア（体組成・握力・椅子立ち上がり試験）と骨密度の検査を行い、対象者にその場で結果を回付し予防のための指導を行いました。また、血液検体を分析し、アルブミンや高感度CRP等の通常の特定健診では評価しない項目について結果を回付しました。尿検体の分析からは、食塩摂取量の推定値を回付しました。ふくけん!健診ミニを通じて、研究に必要な情報と試料を得るとともに、結果の回付を通じて市民の健康づくりに貢献しました。

コホート調査 （ふくけん!健診）の 実施

- 2024年2～3月にかけて、常葉大学、静岡県立大学、京都大学、聖隷福祉事業団等の関係機関と連携し、袋井市でコホート調査（ふくけん!健診）を実施しました。調査日は16日、準備日は3日、検体等回収日は10日（計29日間）でした。
- コホート調査に先立ち、健診実施会場等で住民向けの事前説明会を実施しました（1日2回、2日間）。説明会では、健康づくりに関する講演会も併せて実施しました。
- ふくけん!健診には、のべ888人の参加者を得ました。
- コホート調査で収集した臨床情報をクリーニングしデータベース化しました。血液・尿中の主要なマーカーを測定し、残検体を冷凍保存しました。
- 末梢血からDNAを抽出し、ゲノム解析を行うための試料を確保しました。
- コホート調査後は、結果（特定健診相当分ならびに医学的意義が明確な項目）を対象者に回付するとともに、結果説明会を開催しました。結果説明会では、サルコペニアの予防に有用な運動指導や、脳卒中予防、歯科衛生に関する講演も行いました。

コホート調査への 参加スタッフの数

- コホート調査（ふくけん!健診ミニ、ふくけん!健診、ならびに関連業務（事前説明会、結果説明会、市町や医療機関等の調整業務）のため、研究代表者が年間67日間袋井市に出向きました。
- コホート調査に関わった教職員（他大学や県からの参加者含む）は延べ606人でした。

静岡県市町国保データベース (SKDB)

本学では、静岡県下全35市町の国民健康保険および後期高齢者医療制度加入者の医療・介護・特定健診データを結合した大規模なデータベース「静岡県市町国保データベース (SKDB)」を整備し、社会健康医学に関するエビデンスの創出を目的とした医療ビッグデータ研究を実施しています。令和5年時点の静岡SKDBの登録者は約265万人で、最長で10年以上追跡することが可能です。様々な疾患の発症や予後の予測や、治療効果評価など社会健康医学に関するエビデンスの創出を目指しています。これらは Shizuoka Study の名前で論文発表しており、令和5年度では22報の実績があり、そのうち5報が国際雑誌への報告でした (いずれも令和6年3月13日時点)。令和3年度は14報 (うち国際雑誌5報)、令和4年度は23報 (うち国際雑誌8報) でした。コホート研究と並び本学の研究の主流となっています。

図1. SKDB登録者の年齢分布の年次推移 (SKDB2024)

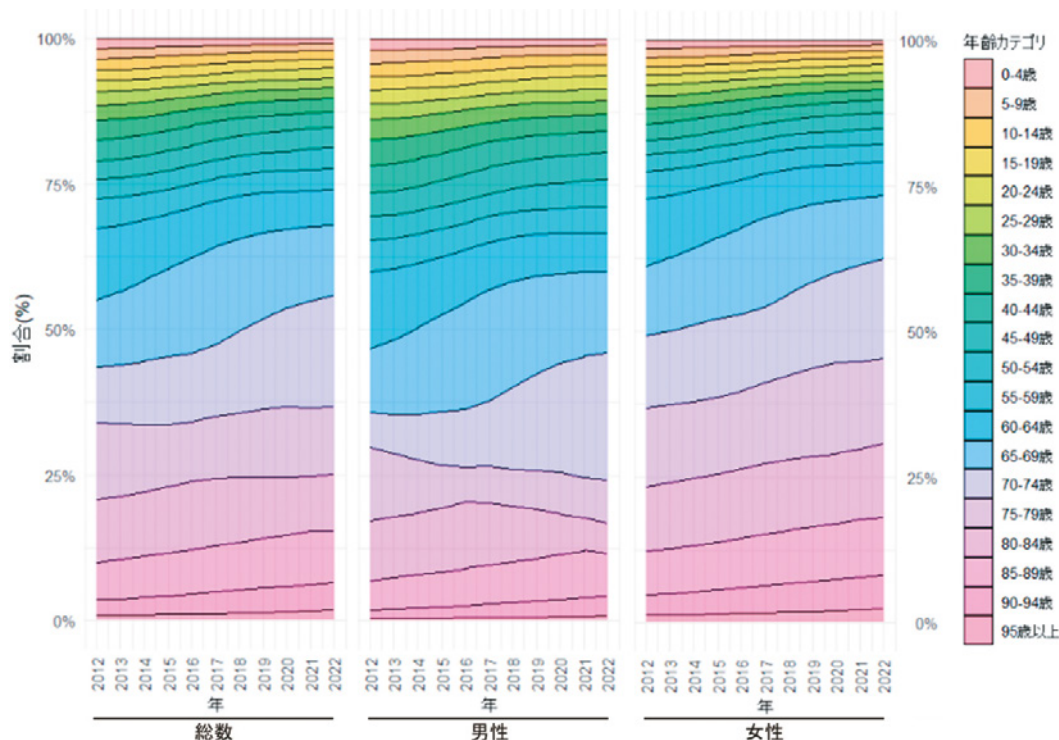
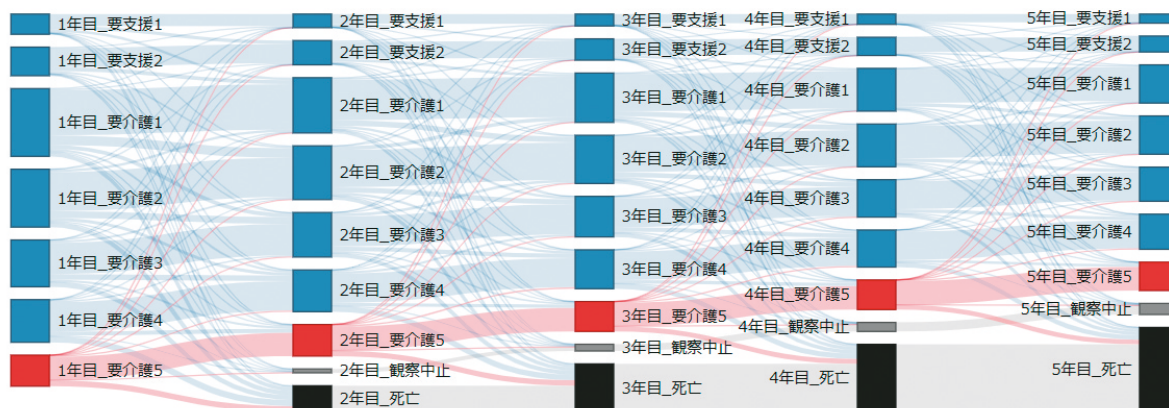


図2. 介護認定後の介護度の推移 (SKDB2024)



医療ビッグデータ解析研究に関する論文件数及び学会発表件数 22件 (3/13時点)

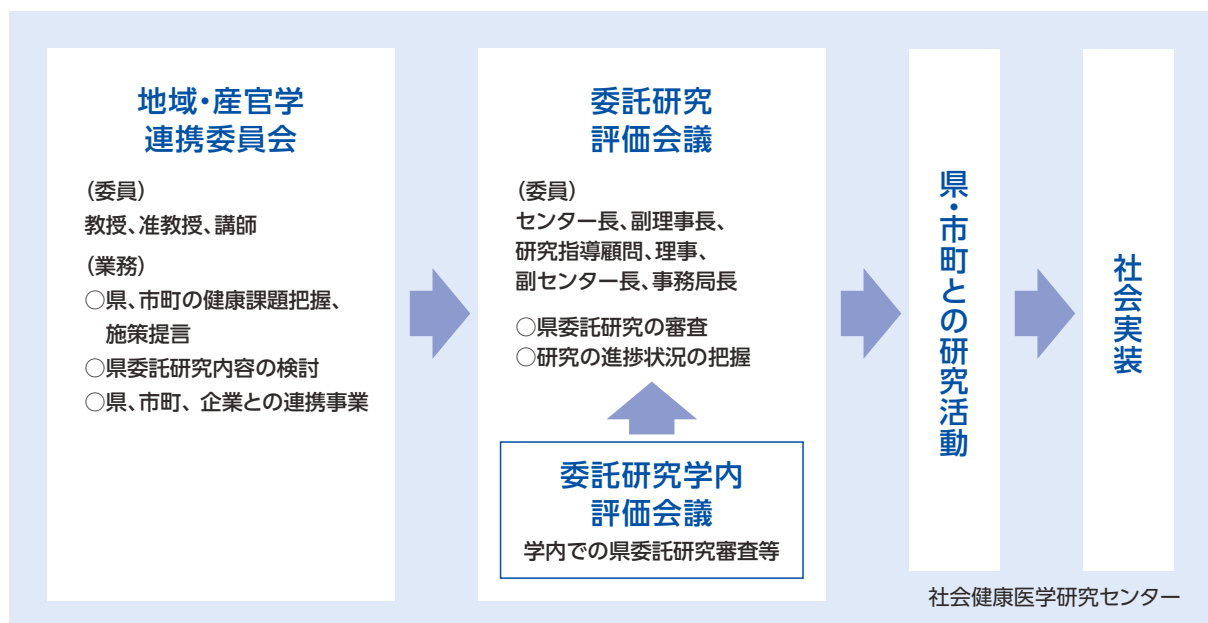
継続研究 35件

新規開始研究 27件

- 【持続する孤立性拡張期高血圧と心血管イベントとの関連:SKDB研究】
- 【KDBを用いた多剤併用と大腿骨近位部骨折発生リスクとの関連の検討】
- 【虫垂切除による大腸癌の発生リスクの確認】
- 【薬剤性肺障害発生の因果リスクが推定される医薬品の探索】
- 【腎機能分類と医療費の関連性に関する研究】
- 【フルオロキノロン系抗菌薬による大動脈イベント発生の因果リスクの推定】
- 【レセプトと健診データを用いた糖尿病発症予測の研究】
- 【脂質異常症治療における因果フォレストモデルを用いた高ベネフィットアプローチの有用性評価】
- 【糖尿病患者における膵癌発生のリスク因子の検討】
- 【橈骨遠位端骨折における二次性骨折リスク因子の検討】
- 【高齢者における急性A型大動脈解離の術式選択の妥当性について】
- 【腎機能とバラシクロビル塩酸塩による中毒性脳症の発症頻度】
- 【大腸癌の発症における高血圧の影響についての研究】
- 【卵巣癌の治療進歩に伴う医療費への影響に関する調査】
- 【緩和的放射線治療に関する記述疫学的研究】
- 【脂質異常症患者における医療機関受診の頻度が脳血管イベント、心イベント及び死亡率に与える影響】
- 【フルオロキノロン系抗菌薬によるくも膜下出血の因果リスクの推定】
- 【急性B型大動脈解離に対する治療成績のレセプトデータによる把握】
- 【非感染性疾患に関する大規模国際疫学調査】
- 【生活習慣病患者における初回薬物治療の種類が心イベント、脳血管イベント、死亡率及びコストに与える影響】
- 【大腿骨骨折の記述疫学的分析とリスク因子の解明】
- 【季節性アレルギー性鼻炎や環境要因と小児喘息悪化との関連】
- 【SKDB を用いた静岡市糖尿病有病率の地区別推計】
- 【先天性胆道拡張症/膵・胆管合流異常患者のフォローアップ状況および晩期合併症の検証】
- 【持続する孤立性拡張期高血圧と心血管イベントとの関連:SKDB研究】
- 【SKDBを用いたこども医療費助成政策がAmbulatory care-sensitive conditions (ACSCs) 入院に与える影響に関する研究】
- 【酸分泌抑制薬の処方状況の解析】

地域産官学連携

地域社会への実装を生み出す静岡SPHモデル



- 社会健康医学研究により得られた知見や成果を、行政や医療機関などと連携して社会実装する取組を推進しています。
- センター長及び副センター長を中心に県と連携を図り、県や市町、企業等からの諸課題に対する対策の提案や助言等を積極的に実施しています。

静岡県からの指定研究の取組

課題名	研究期間 (年度)	目的	地域社会への社会実装
健康寿命延伸のための市町別生活習慣等のモニタリング	R4~5	生活習慣病予防のモニタリングに必要な、栄養素摂取量、身体活動量、喫煙、飲酒などの生活習慣などを、市町毎に十分な精度・代表性を以て適切な間隔で測定できるような体制づくりの構築	<ul style="list-style-type: none"> ・市町等の行政施策に直接利用できる生活習慣モニタリングを実施するシステムの構築 ・モニタリングに基づいて、住民の健康状態の把握を行い、それに基づいた効果的な行政施策の立案、実施、及びその評価方法の確立
新型コロナウイルス感染症の高齢者施設等での発生状況の分析	R5~6	各施設から県に報告された新型コロナウイルス感染症患者の発生報告に基づく発生状況の分析及び集団発生等予防の方策の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の発生報告に基づく行政関連資料を利用した感染対策施策の実例の周知 ・行政を通じた各高齢者施設・障害者施設への周知及び今後の感染予防施策への貢献

結果 ▶ 非ランダム調査2 研修会

開催日時 2023年9月5日 10:00-17:00

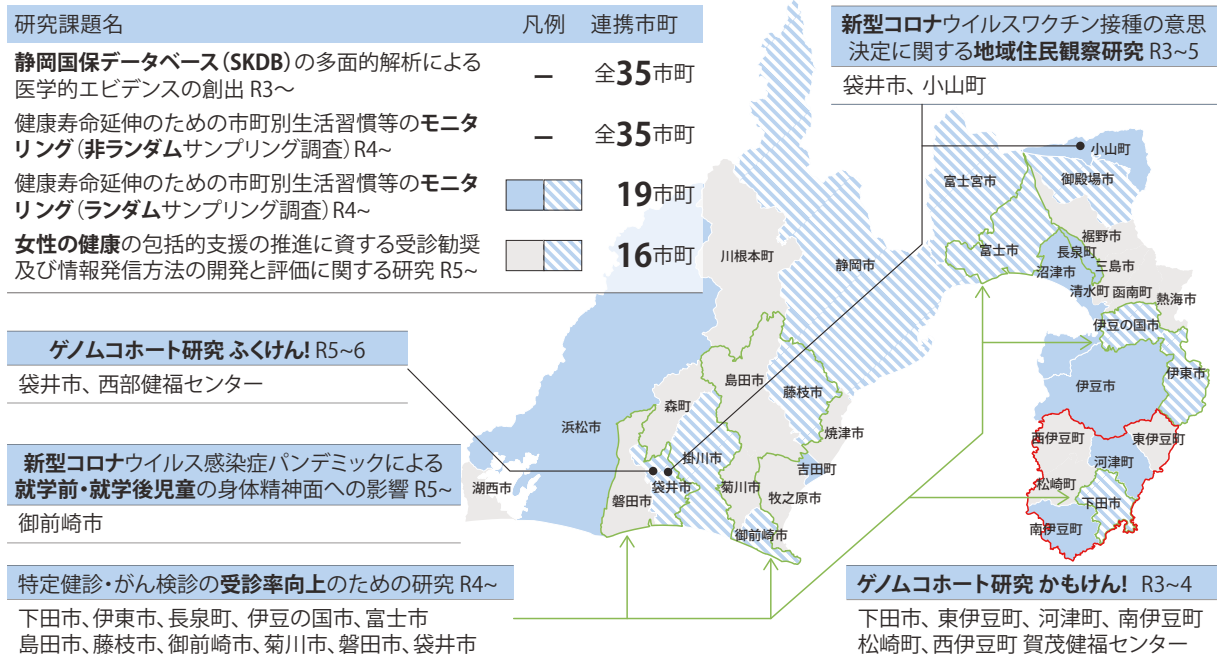
全市町を対象に集計実習などを行う研修会を実施

健康寿命の延伸に寄与する栄養施策等の推進を目指し、地域を把握するための基本的な考え方や調査手法、結果の活用方法等、実践について学びました。



連携 1 市町をフィールドとした研究

- 県内全市町との連携により研究成果の社会実装を目指す多様な研究を展開
- 地域をフィールドとした研究が市町の協力により年々増加



連携 2 市町・県機関の委員やアドバイザーとして参画

- 社会健康医学の学識を行政施策に役立てるため、豊富な研究実績や知見を持つ専任教員が多くの市町・県機関で活躍

県内の行政機関との関わり(主なもの)

区分	市町・県機関	協議会等の役職・講演会の名称	教員名
市町	静岡市	がん検診精度管理協議会委員	山本教授
	静岡市	国民健康保険特定健康診査等実施計画推進協議会委員	溝田准教授
	富士市	ナッジ研修会講師	溝田准教授
	富士市	健康ふじ21推進のための研修会講師	佐々木講師
	袋井市	健康増進業務アドバイザー	田原教授、山本教授
	御前崎市	健康づくり推進協議会アドバイザー	山本教授
	牧之原市	健康づくり推進協議会アドバイザー	田原教授
	東伊豆町	健康づくり推進協議会構成委員	溝田准教授
	小山町	行政アドバイザー	菅原教授
	県関係	賀茂健康福祉センター	健康づくりリーダー研修会講師
中部健康福祉センター		健康増進関係事業情報交換会(がん検診に係る助言)	山本教授
西部健康福祉センター		食育指導者研修会講師・助言	溝田准教授
		ふじのくに健康増進計画推進協議会委員	山本教授
健康福祉部		血圧測定習慣化タスクフォース委員	田原教授
		高血圧対策等データ分析情報活用事業に係る広報検討会アドバイザー	溝田准教授
		歯科保健医療提供体制分析・活用事業ワーキング・グループ委員	佐藤講師
経済産業部	フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクト戦略検討委員会委員	山本教授	
	ICOIプロジェクトアドバイザー	田原教授	

医療連携

県や県の施策に協力する団体や医療機関と連携し、 本県の医師などの人材確保対策へ積極的に貢献しています

地域医療連携推進法人ふじのくに社会健康医療連合（代表理事：宮地良樹）の理事会（全4回）に理事長が出席し、静岡県立病院機構、地域医療機能推進機構と医師確保や医療連携などについて意見交換を行い、連携を深めました。

県から医師配置調整業務を受託し（受託事業）、配置調整連絡会議等（全4回）、医師確保部会（全4回）、及び医療対策協議会（全3回）への参加、県との定期協議（原則月1回）への参加、専任医師1名を採用し、その専門性を生かしたキャリア形成プログラムの再構築を行う病院への助言及び静岡県立総合病院との協働による県医学修士研修資金被貸与者・病院面談の実施などを通じて本県の医療体制を支える医療人材の確保に貢献しました。また、事業の実施を通じて、県や医療機関、浜松医科大学等関係機関との連携を深めることができ、教育研究の基盤を強化しました。

様々な地域の課題解決に貢献するために、 医療機関等との連携・協力関係を構築しています

地域医療連携推進法人ふじのくに社会健康医療連合における連携として、静岡県立総合病院と締結した図書館の相互利用協定の下、互いに24時間利用可能な体制を維持し、本学教員・学生のみならず、同病院医師等の調査研究の利便向上も図りました。

聴覚領域について、先端的な取組を進める静岡県立総合病院と 連携しています

静岡県立総合病院での取組を活かして、聴覚、語音認知、音声言語獲得及びその障害のメカニズムについて基本的な知識を得るとともに、オーディオロジー（聴能学）に関する学識を修めた上で、広く認知科学にまで精通した人材の養成に向けて、修士課程内に聴覚・言語コースを設置し、1名が入学しました。



他大学との連携

相互に所有する研究資源を両組織の研究活動全般に活用することで、相互の研究交流を促進するとともに、両組織の学術研究の一層の充実を図るため、国立大学法人弘前大学と、コホート研究を柱にした学術研究交流に関する協定を締結しました。

期間 2023年6月1日～2027年3月31日

連携する学術研究交流事項

- 1 コホート事業の高度化のための研究連携
- 2 研究成果の社会実装を推進するための基盤強化
- 3 URAを含む研究支援人材や若手研究者の育成と人材交流



弘前大学

成果の還元

住民の健康寿命の延伸に資する研究課題を科学的に分析し、県や市町の健康増進施策、疾病予防対策の政策形成や各種施策の推進を積極的に支援しています。

また、研究成果を地域に還元していくことは、国内外にも大きな波及効果を生むことから、県や市町とともに、住民が自らの健康を意識し主体的に健康増進活動に取り組めるよう、研究成果を住民に分かりやすく情報提供しています。

PROJECT 1

地域と連携し、 住民の健康づくりと、 予防医学研究に貢献

静岡多目的コホート事業

静岡県の様々な地域において、住民を対象に5年ごとに健診を実施。健診データを研究に活用して、病気の予防方法の開発につなげるプロジェクト。



賀茂地域で実施した「静岡多目的コホート事業賀茂健康長寿研究」のフィールド調査で収集した臨床情報等を活用した研究を推進しました。

一例として、咀嚼力が低下している者では有意な骨格筋量の減少と体重の増加が観察されましたが、そのうち6割以上で咀嚼力の低下を自覚できていなかったことから、保健指導においては、咀嚼について丁寧に聞き取ることが重要であることを提案しました。



特定健診・がん検診の受診率向上の取組

特定健診受診率向上に関心の高い市町（伊東市、伊豆の国市、下田市、御前崎市、袋井市、島田市、藤枝市、磐田市、富士市）に対し、分析結果に基づき、受診率向上に効果があると考えられる施策を市町とともに立案し、実施可能な施策を実施した。また、がん検診・特定健診の受診勧奨動画を作成し、県・市町に提供を行った。加えて、裾野市、熱海市に対し、がん検診受診勧奨資材を提供しました。

フォーラム、セミナー、公開講座

地域の方々が、自らの健康を意識し、主体的に健康増進活動に取り組む機運を醸成するため、フォーラムやセミナー、公開講座を開催しています。



2022年10月、「第27回静岡健康・長寿学術フォーラム」に教員が実行委員及び企画運営委員として参画し、「震災復興から未来型ヘルスケアへ」をテーマとする学術セッションを主催するとともに、高校生及び大学生の研究活動発表会を支援しました。また、フォーラムの企画・運営にも携わりました。

(参加者数：オンライン含め213名)

主催：静岡健康・長寿学術フォーラム実行委員会（静岡大学、浜松医科大学、静岡県立大学、静岡社会健康医学大学院大学、静岡県）



2023年2月、県主催(大学共催)で健康寿命をのばそう!講演会を開催し、高血圧対策としての減塩や運動の意義と重要性についての講演会を開催しました。(参加者数：147名)



2023年3月、「遺伝にまつわる四方山話」及び「オーラルヘルスプロモーション～歯磨きは裏切らない～」をテーマとした公開講座を開催しました。

(参加者数：147名)

2023年9月、県主催(大学共催)で「野菜マシマシ」をテーマに健康寿命をのぼそう! 講演会を開催しました。
(参加者数:115名)

2023年12月、「豊かな健康を栄養で育む」をテーマに、静岡社会健康医学セミナーを初開催し、好評をいただきました。
(参加者数:オンラインを含め62名)

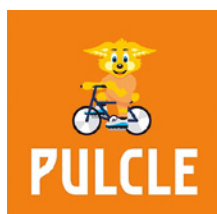


2024年3月、「『あたりまえ』でない聞こえのはたらき」及び「先端的な治療を受ける前に考えておきたいこと」をテーマとした公開講座を開催しました。
(参加者数:オンラインを含め61名)

地域との結びつき

地域の環境づくり

静岡市のシェアサイクル事業「PULCLE（パルクル）」に協力し、サイクルポートを設置しています。地域の方々にもご利用いただき、喜ばれています。



PULCLEとは、静岡市内のまちなかに複数のサイクルポートを設置し、いつでも、どここのポートでも自転車の貸出・返却ができる静岡市の新しい移動システムです。

PULCLEの普及により、公共交通機関の補完や利用促進、自動車交通の抑制による環境負荷の軽減、自転車を所有から共有に切り替わることによる放置自転車の減少、まちなかの回遊性向上による地域活性化を目指します。

【静岡市公式Webサイトより】

大学敷地西側のバス停前に バス待合所を設置

これまでバス停には待合スペースがなく、歩道上で待機するバス利用者が歩行者の支障となっていました。安全・安心に過ごせる環境となりました。

教職員や学生とともに、地域の方々にもご利用いただいています。



城北小学校の6年生が見学に来ました

2022（令和4）年7月15日、お隣りの城北小学校の6年生が、見学に来てくれました。宮地学長の大学紹介や田原研究科長の講義の後、院生の講義や研究室等の施設見学が行われました。



Diversity

ダイバーシティ

多様なバックグラウンドの学生

本学には、多様なバックグラウンドを持つ学生が集まります。それぞれの専門性を基盤に本学で学ぶ学生たちは、社会健康医学を学んだ先に、それぞれの未来を見据えています。



MODEL

1

行政保健師

研究成果を行政の相談支援の現場に還元

現在取り組んでいる研究での成果を行政における相談支援の実践現場に還元し、住民の声を生かした相談体制を実現することが目標です。また、社会健康医学での学びや研究のさらなる発展から、住民の健康行動を後押しする効果的なツールの開発などにも取り組みたいと考えています。

大嶋 美智子さん 修士課程 修了

MODEL

2

勤務医

より大きなデータベースを活用した臨床研究をしたい

修得したビッグデータの取り扱い方、統計解析手法を生かし、臨床研究の幅を広げていきたいです。今後はより大きなデータベースを活用した研究を行っていきたいと考えています。また大学院で得た知識を活用し、多施設共同研究の立案と実践を計画しています。

宮腰 明典さん 修士課程 修了



MODEL

3

製薬企業事業開発職

大学院で得た知識と経験を医薬品開発につなげる

2年間の学びで得た知識と経験を業務に落とし込むことで、患者様のQOLを向上できる医薬品の開発につなげたいと思います。さらには、製薬企業として公衆衛生・社会健康医学の観点から社会に貢献できるような取り組みを立案し推進できればと思っています。

生形 奈菜子さん 修士課程 修了



PUBLIC HEALTH

研究のフロントランナーたち

多様な領域の専任教員

本学には、世界的に活躍している多様な領域の教員が在籍し、講義と研究指導を担当しています。また、以下のような、代表的な六つの分野における最先端の研究に取り組んでいます。

RESEARCH

1

老年医学・高血圧学

地域住民を長期間追跡し、
高齢者特有の疾患の病因を解明

高齢者で観察される臨床的特徴には、様々な要因が複雑に関与しています。例えば、骨格筋の量と質が低下した状態であるサルコペニアは大動脈の硬化と関連し、片脚での立位保持時間の低下が認知機能の低下と関連することが私たちの疫学研究から明らかになりました。このような複雑な連関を紐解くことは、高齢者に特有の疾患の病因を解明し病態を理解する上で必要な知見であり、また予後を予測する上でも役に立ちます。地域住民を長期間追跡するコホート研究から、生活習慣、高血圧、動脈硬化、サルコペニア、フレイルの連関を明らかにすることで、高齢期における疾病予防や健康増進に資することを目的とした研究を進めています。



教授
田原 康玄

RESEARCH

2

研究倫理・研究方法論

研究に関わるすべての人にとって
安全で質の高い研究を目指す

社会健康医学の調査研究では、研究のテーマによらず、その研究データが持つ倫理的・法的・社会的な含意を考慮することが不可欠です。多くの場合、研究は参加者や社会に直接的な利益をもたらすものではないため、研究者には研究のリスクから参加者、社会、そして研究者を守る役割があり、そのための知識やスキルも必要です。これまでに、がん患者と医師による対話の参与観察、先端科学技術に対する一般市民や専門家集団の意識調査、医療機関のWEB情報、行政機関の公開情報など、多様なデータを様々な方法で分析してきました。質の高い安全な研究を目指して、よりよい仕掛けを一つ一つ皆さんと作っていきたくと考えています。



講師
八田 太一

RESEARCH

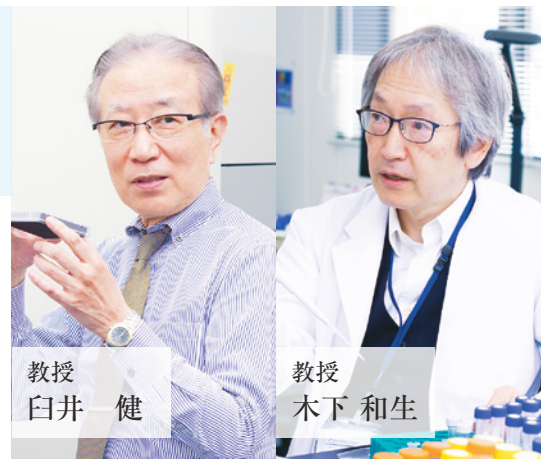
3

ゲノム医学

最先端ゲノム医学の知見を
健康医学の分野に役立てる

近年、急速に医療現場のみならず健康医学の分野においても「遺伝」や「ゲノム医学」に関する知見が取り入れられるようになってきました。一方でこれらの情報についてはその特性を理解した取り扱いが必要です。未来の健康科学を担う人材には、このような知識を学び、研究に取り組んでいただきたいと考えています。(臼井教授)

研究実験室ではコホート研究で収集する検体の管理や生体分子測定、DNA抽出を行っています。免疫とがんに関わる酵素AIDの研究もしています。細胞培養装置・各種顕微鏡・セルソーター・デジタルPCRなど、定量的生物学実験を行える設備を活用し、人々の健康に役立てます。(木下教授)



教授
臼井 健

教授
木下 和生

4

聴覚言語学

先天性重度難聴への早期介入には
社会健康医学の知見が不可欠

先天性重度難聴は出生1500人に1人ほどの高頻度で出現し、両親の95%は健聴者です。これまで、これらの児に対する療育は手話以外の選択がありませんでした。約30年前に開発された人工内耳は聾であっても音声言語の獲得できるという点で画期的なものです。内耳の残された聴神経を直接、電気刺激することによって音声認識が可能になります。ただ、その成果を得るための臨界期はおよそ3歳半までと言われており、早ければ早いほど良いため生後6か月が推奨されています。そして、術後には適切な聴覚活用による介入が大切です。これらの流れを社会に実装するためには医療、保健、教育の連携が必要で、これはまさに社会健康医学そのものです。

教授
高木 明教授
古川 茂人

5

ヘルスコミュニケーション

行動科学や行動経済学を基盤に
社会と直結した研究を実施

ヘルスコミュニケーションは、社会における人々の健康の維持増進の支援に取り組む上で、非常に強い武器になります。この分野では、行動科学や行動経済学を基盤に、行政やマスメディアとも積極的に協働し、人々の行動変容に繋げ、エビデンス→プラクティスギャップを埋めるための方法を開発・普及啓発を進めています。また、自然災害に加え、新型コロナという未曾有の感染症蔓延を経験し、ますます需要が高まっているリスクコミュニケーションについても、最前線の現場と直結した研究を実施しています。研究のための研究に終わらず、人々や社会に役立てるための最新の学問であるDissemination & Implementation scienceを一緒に深めましょう。

准教授
溝田 友里教授
山本精一郎

6

医療社会学・死生学

死別悲嘆へのサポートが充実した
地域コミュニティの構築を研究

死別悲嘆（グリーフ）に対して、共感的で互助的な地域コミュニティの構築について研究しています。当事者・医療者・宗教者などと一緒に市民団体の一員として、グリーフサポートの小冊子の作成、当事者のわかちあいの会の開催、一般市民向けの看取りや死別に関する連続講座の開催といった社会変革活動に自ら参加し、その過程で自分たちの取り組みの評価や改善を図るために、参与観察的研究や理論的研究を行っています。また、現代社会におけるグリーフやグリーフサポートの様相を当事者の視点から理解するために、死別経験者やグリーフサポート活動に携わる市民と行政関係者に対する、インタビュー調査にも取り組んでいます。

教授
山崎 浩司

財務状況等

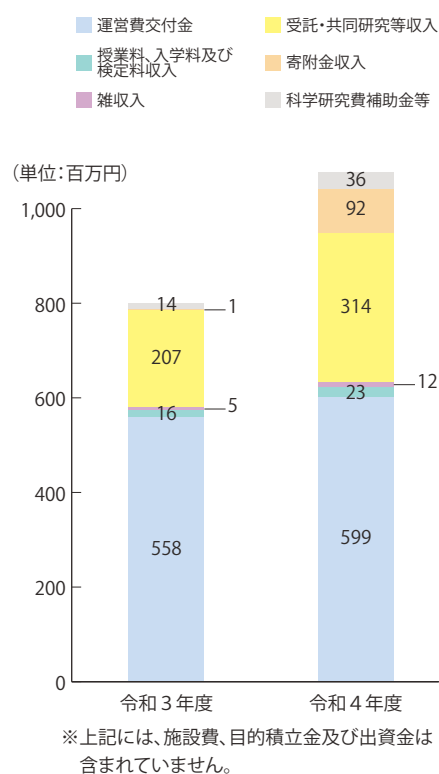
主な運営財源の推移

令和4年度の総事業費（受入額）は、前事業年度より275百万円増加し、1,078百万円となりました。増加の主な要因は、受託研究収入及び寄附金収入の増加です。

(単位:百万円)

	令和3年度	令和4年度	増減
運営費交付金	558	599	41
授業料、入学金及び 検定料収入	16	23	7
雑収入 (うち 科研費間接経費)	5 (2)	12 (11)	7 (9)
受託・共同研究等収入	207	314	107
寄附金収入	1	92	91
科学研究費補助金等	14	36	22
計	803	1,078	275

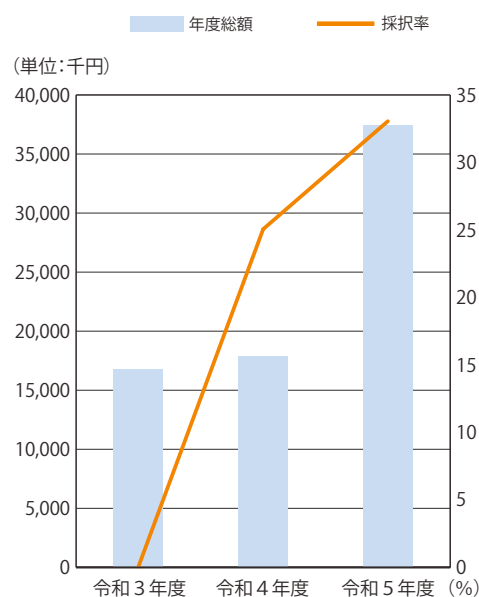
※金額は百万円未満を切捨しているため、合計金額と一致しない。



科研費獲得状況

(単位:円)

区分	令和3年度	令和4年度	令和5年度
基盤研究(A)	9,750,000	8,840,000	8,840,000
基盤研究(B)	416,000	897,000	11,945,000
基盤研究(C)	4,744,241	4,678,000	7,091,669
若手研究	1,770,000	1,170,000	4,290,000
挑戦的研究(開拓)	0	0	2,872,000
挑戦的研究(萌芽)	0	2,210,000	2,340,000
計	16,680,241	17,795,000	37,378,669
採択率	0%	25%	33%



公立大学法人静岡社会健康医学大学院大学への寄附について

皆様からの寄附金は、次のような用途に活用させていただきます。

区分	
大学の支援	教育活動等、地域貢献活動、学習環境の整備、大学の運営に要する経費等
修学支援事業	経済的理由により修学が困難な学生の支援 学生又は不安定な雇用状態にある研究者の雇用及び研究への支援
奨学寄附金	学術研究の推進

寄附講座の開設

区分	内容
講座名	ウエルネスみらい講座(タイカ)
講座開設期間	R6~8年度
金額	90,000,000円
研究の目的及び テーマ	「長寿ウエルネス」に寄与することを目指す 【主なテーマ】 褥瘡の実態調査やその発生機序、創傷治癒機転等に関する基礎研究と臨床への応用、 医薬品、医療材料、医用工学機器などの開発、褥瘡に悩む患者さんや家族への啓発・ 心のケアなどに貢献すること
特定教員	2名



2023.4.1

寄附についての詳細は、こちらをご参照ください。
<https://s-sph.ac.jp/disclosure/donation/>

財務情報

貸借対照表の概要

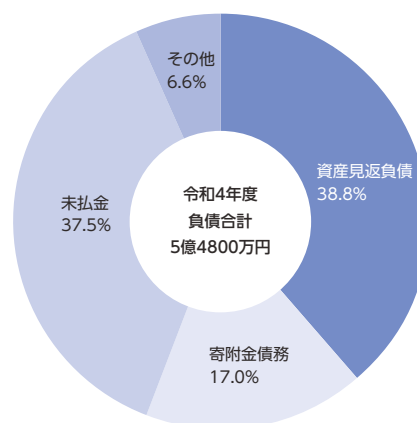
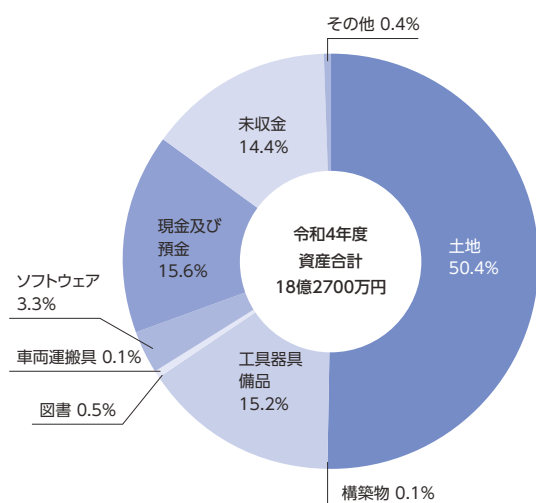
(単位:百万円)

資産の部	令和3年度	令和4年度	増減
土地	920	920	0
構築物	—	1	1
工具器具備品	349	277	△72
図書	7	10	3
車両運搬具	2	2	0
ソフトウェア	80	60	△20
現金及び預金	253	285	32
未収金	220	263	43
その他	7	7	0
資産合計	1,840	1,827	△13

(単位:百万円)

負債の部	令和3年度	令和4年度	増減
資産見返負債	289	212	△77
寄附金債務	1	93	92
未払金	333	205	△128
その他	33	36	3
負債合計	658	548	△110
純資産の部	令和3年度	令和4年度	増減
資本金	920	920	0
資本剰余金	140	129	△11
利益剰余金	—	117	117
当期末処分利益	122	112	△10
純資産合計	1,182	1,279	97
負債・純資産合計	1,840	1,827	△13

※金額は百万円未満を切捨しているため、合計金額と一致しない。



キャッシュ・フロー計算書の概要

(単位:百万円)

	令和3年度	令和4年度	増減
I 業務活動によるキャッシュ・フロー	198	30	△168
II 投資活動によるキャッシュ・フロー	56	0	△56
III 財務活動によるキャッシュ・フロー	—	—	—
IV 資金増加額(又は減少額)	253	31	△222
V 資金期首残高	—	253	253
VI 資金期末残高	253	285	32

※金額は百万円未満を切捨している。

損益計算書の概要

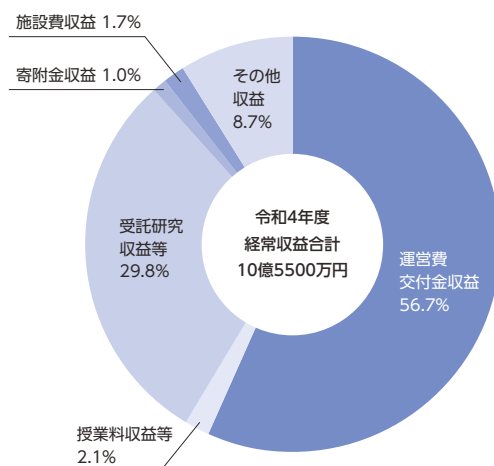
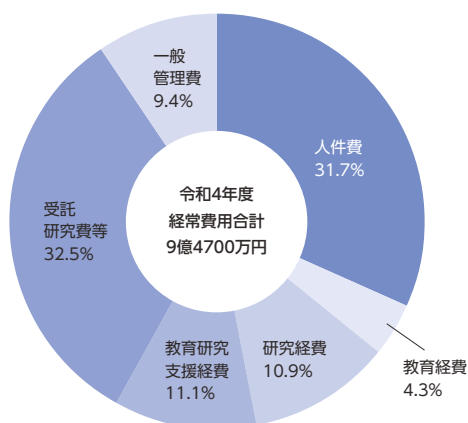
(単位:百万円)

	令和3年度	令和4年度	増減
経常費用			
人件費	258	300	42
教育経費	35	41	6
研究経費	121	103	△18
教育研究支援経費	104	105	1
受託研究費等	185	307	122
一般管理費	118	89	△29
経常費用合計	824	947	123
臨時損失	46	—	△46
計	871	947	76

(単位:百万円)

	令和3年度	令和4年度	増減
経常収益			
運営費交付金収益	556	596	40
授業料収益等	16	22	6
受託研究収益等	195	313	118
寄附金収益	2	11	9
施設費収益	89	18	△71
その他収益	85	92	7
経常収益合計	946	1,055	109
臨時収益	46	—	△46
目的積立金取崩	—	4	4
計	992	1,059	67
当期総利益	122	112	△10

※金額は百万円未満を切捨しているため、合計金額と一致しない。



利益の処分に関する書類

(単位:百万円)

	令和4年度
I 当期末処分利益(当期総利益)	112
II 利益処分額	
(1) 積立金	44
(2) 目的積立金	67

※金額は百万円未満を切捨しているため、合計金額と一致しない。



■ 学生ホール

陽光あふれる広々とした空間で、学外の方々との交流に最適です。

キャンパス紹介

■ 講義室2



授業で主に使用する教室です。

■ 演習室2



小人数の演習や授業で使用されている、使い勝手の良い教室です。

■ 図書館



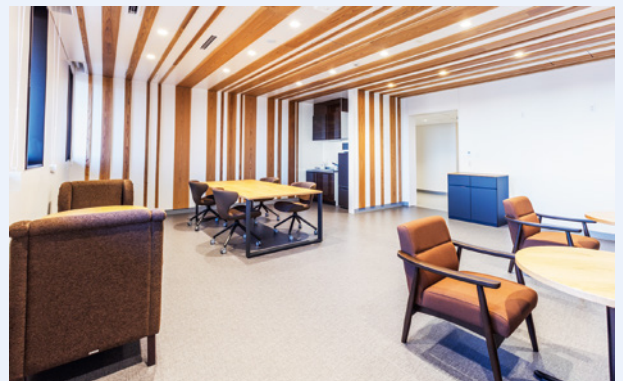
図書館の利用は24時間可能で、本の貸出・返却は無人で行われています。本学は電子ジャーナルが充実しており、学生や教員は主にそちらを使用している関係で、図書館には、基本的な書籍・資料を配架しています。

■ 院生室



院生一人ひとりに机を用意しています。授業の合間や特別研究で使われています。

■ ラウンジ



各階に、歓談や飲食が可能なラウンジを設けています。

大学見取図はこちらからご覧になれます。

<https://camel3.com/cms/files/s-sph/MASTER/0500/GaQJ94Kf.png>

基礎データ

学生数 (2023年度末現在)

社会健康医学研究科		収容定員	在学生数
修士課程	1年(2023年度入学者)	10人	16人
	2年(2022年度入学者)	10人	16人
小計		20人	32人
博士課程	1年(2023年度入学者)	2人	6人
	小計	22人	38人

教職員数 (2023年度末現在)

学長	副学長	教授	准教授	講師	教員計	事務職員	合計
1	1※	14	7	4	26	17	43

※副学長は非常勤のため、教員計からは除いている。

修了者数及び進学・就職等の状況

修了時期	修了者数	所属先で勤務継続			就職希望者	就職決定者	就職内定率(%)	本学の博士後期課程に進学
		医療機関	企業等	小計				
2023年3月	15	12	3	15	0	—	—	4
2024年3月	17	6	8	14	3	3	100	3

論文件数等(筆頭・最終・責任著者、代表発表者)

査読付原著論文(筆頭・最終・責任著者)	16報
総説(筆頭著者)	3報
国際学会発表等(代表発表者)	3件
国内学会総会発表等(代表発表者)	25件
計	47件

筆頭著者や代表発表者等以外の論文等発表実績

査読付原著論文(筆頭・最終・責任著者以外)	52報
総説(筆頭著者以外)	3報
国際学会発表等(共同発表者)	6件
国内学会総会発表等(共同発表者)	52件

※本学の所属を明記していない論文等は除きます。

※学会発表は、ポスター発表を除きます。

2022年度 論文及び学会等発表一覧

原著論文 (査読有り)

【筆頭著者・責任著者・最終著者】

- Kawahishi M, **Miyachi Y**. A 1-Year Survey of Zoster-Associated Pain after Amnionect Treatment. *Dermatol Ther (Heidelb)*. 2022;12(5):1239-1252. doi:10.1007/s13555-022-00727-9
 - Kosugi R, Ariyasu H, Kyo C, Yonemoto T, Ogawa T, Kotani M, Saito K, Inoue T, **Usui T**. An Asymptomatic Case With MEN1 Slipping Through Genetic Screening by SNV-dependent Allelic Dropout. *Journal of the Endocrine Society*. 2022;6(9):bvac118. doi:10.1210/endo.bvac118
 - Yamaguchi-Sekino S, Taki M, Ikuyo M, Esaki K, Aimoto A, Wake K, **Kojimihara N**. Assessment of combined exposure to intermediate-frequency electromagnetic fields and pulsed electromagnetic fields among library workers in Japan. *Front Public Health*. 2022;10:870784. doi:10.3389/fpubh.2022.870784
 - Kurivama N**, Koyama T, Ozaki E, Saito S, Ihara M, Matsui D, Watanabe I, Kondo M, Marunaka Y, Takada A, Akazawa K, Tomida S, Nagamitsu R, Miyatani F, Miyake M, Nakano E, Kobayashi D, Watanabe Y, Mizuno S, Mackawa M, Yoshida T, Nukaya Y, Mizuno T, Yamada K, Uehara R. Association Between Cerebral Microbleeds and Circulating Levels of Mid-Regional Pro-Adrenomedullin. *Friedland R, ed. JAD*. 2022;88(2):731-741. doi:10.3233/JAD-220195
 - Kato M, Okada Y, Nakano W, Takagi D, Ochi M, Ohyagi Y, Igase M, **Tabara Y**. Bioimpedance phase angle is independently associated with myosteatosis: The Shizuoka study. *Clinical Nutrition*. 2023;42(5):793-799. doi:10.1016/j.clnu.2023.03.016
 - Urano T**, Yasumoto A, Yokoyama K, Horichi H, Morishita E, Suzuki Y. COVID-19 and Thrombosis: Clinical Aspects. *CDT*. 2022;23. doi:10.2174/1389450123666221005092350
 - Sato Y**, Okumura A, Nohara M, Fukuoka T. Determinants of Awareness of Clinical Practice Guidelines among Healthcare Users in Japan. *Journal of Patient Experience*. 2023;10:237437352311522. doi:10.1177/23743735231152205
 - Fujimoto S**, Ogawa T, Komukai K, Nakayama T. Effect of education on physical and occupational therapists' perceptions of clinical practice guidelines and shared decision making: a randomized controlled trial. *J Phys Ther Sci*. 2022;34(6):445-453. doi:10.1589/jpts.34.445
 - Dote H, **Nakatani E**, **Mori K**, **Sugawara A**. Factors associated with incidence of acute kidney injury: a Japanese regional population-based cohort study, the Shizuoka study. *Clin Exp Nephrol*. 2023;27(4):321-328. doi:10.1007/s10157-022-02310-0
 - Hatta T**, Ide K, Fujita M, Ikka T. Financial risks posed by unproven cell interventions: Estimation of refunds from medical expense deductions in Japan. *Stem Cell Reports*. 2022;17(5):1016-1018. doi:10.1016/j.stemcr.2022.03.015
 - Ozasa E, Sakuraya A, **Sato Y**, Takehara S, **Kojimihara N**. How Doctors in Charge of Medical Education Recognize and Use Clinical Practice Guidelines in Education: A Cross-Sectional Study. *Tokyo Women's Medical University Journal*. 2022;2022(6):67-71. doi:10.24488/twmj.2022003
 - Yamasaki K, **Miyachi Y**. Perspectives on rosacea patient characteristics and quality of life using baseline data from a phase 3 clinical study conducted in Japan. *The Journal of Dermatology*. Published online September 30, 2022;1346-8138.16596. doi:10.1111/1346-8138.16596
 - Amagasa T**, Nakayama T. Relationships between pay-for-performance (PFP), work stressors, and depression in sales workers: a structural equation model analysis. *Journal of Occupational & Environmental Medicine*. 2022;Publish Ahead of Print. doi:10.1097/JOM.0000000000002627
 - Tabara Y**, Setoh K, Kawaguchi T, Matsuda F. Skeletal muscle mass index is independently associated with all-cause mortality in men: The Nagahama study. *Geriatrics Gerontology Int*. 2022;22(11):956-960. doi:10.1111/ggi.14491
 - Yamaguchi-Sekino S, **Kojimihara N**. Survey of Delivery Outcomes for Employees at Child Imaging Facilities in Japan Based on Information Recorded in the Maternal and Child Health Handbook. *MRMS*. Published online 2022;bc.2022-0080. doi:10.2463/mrms.bc.2022-0080
 - 高木明**. 局所麻酔と外耳道・鼓膜上皮の扱い方. *Otology Japan*. 2023;32(3):292-294. doi:10.11289/otoljpn.32.292
- 【その他】
- Hisamatsu T, Miura K, **Tabara Y**, Sawayama Y, Kadowaki T, Kadota A, Torii S, Kondo K, Yano Y, Fujiyoshi A, Yamamoto T, Nakagawa Y, Horie M, Kimura T, Okamura T, Ueshima H, for the SESA and ACCESS Research Groups. Alcohol consumption and subclinical and clinical coronary heart disease: a Mendelian randomization analysis. *European Journal of Preventive Cardiology*. Published online July 30, 2022;zwac156. doi:10.1093/eurpc/zwac156
 - Fukai K, Terauchi R, Furuya Y, Sano K, Nakazawa S, **Kojimihara N**, Hoshi K, Nakano T, Toyota A, Atemichi M. Alcohol use patterns and risk of incident cataract surgery: a large scale case-control study in Japan. *Sci Rep*. 2022;12(1):20142. doi:10.1038/s41598-022-24465-2
 - Chen Z, Kuriyama K, **Nakatani E**, **Sato Y**, Saito R, Marino K, Komiya T, Onishi H. Anatomy-based prediction method for determining ipsilateral lung doses in postoperative breast radiation therapy assisted by diagnostic computed tomography images. *Reports of Practical Oncology and Radiotherapy*. 2022;27(4):699-706. doi:10.5603/RPOR.a2022.0087
 - Zheng Z, Mukhametova L, Boffa MB, Moore EE, Wolberg AS, **Urano T**, Kim PY. Assays to quantify fibrinolysis: strengths and limitations. Communication from the International Society on Thrombosis and Haemostasis Scientific and Standardization Committee on fibrinolysis. *Journal of Thrombosis and Haemostasis*. 2023;21(4):1043-1054. doi:10.1016/j.jth.2023.01.008
 - Kato M, Ozaki E, Omichi C, Kurita Y, Nakano S, Takagi D, **Kurivama N**, Koyama T. Association between poor sleep quality and locomotor syndrome in middle-aged and older women: A community-based, cross-sectional study. *Modern Rheumatology*. Published online March 15, 2023;road025. doi:10.1093/mr/road025
 - Ozaki E, Matsui D, **Kurivama N**, Tomida S, Nukaya Y, Koyama T. Association between Sedentary Time and Falls among Middle-Aged Women in Japan. *Healthcare*. 2022;10(12):2354. doi:10.3390/healthcare10122354
 - Fukuhara S, Watanabe T, Yamazaki T, Yamanaka S, Nakao K, Asai K, Kashiwagi M, Yamazaki A, Umebachi C, Setoh K, **Tabara Y**, Nakayama T, Matsuda F, Bessho K, the Nagahama Study Group. Associations Among Tooth Loss, Periodontitis, and Carotid Intima-Media Thickness: the Nagahama Study. *JAT*. Published online January 2023:63801. doi:10.5551/jat.63801
 - Miyashita K, Hozumi H, Furuhashi K, **Nakatani E**, Inoue Y, Yasui H, Karayama M, Suzuki Y, Fujisawa T, Enomoto N, Inui N, Ojima T, Suda T. Changes in the characteristics and outcomes of COVID-19 patients from the early pandemic to the delta variant epidemic: a nationwide population-based study. *Emerging Microbes & Infections*. 2023;12(1):2155250. doi:10.1080/22221751.2022.2155250
 - Tago M, Hirata R, Katsuki NE, **Nakatani E**, Oda Y, Yamashita S, Tokushima M, Tokushima Y, Aihara H, Fujiwara M, Yamashita S ichi. Criterion-related validity of Bedriddenness Rank with other established objective scales of ADLs, and Cognitive Function Score with those of cognitive impairment, both are easy-to-use official Japanese scales: A prospective observational study. *Ioana Tolea M, ed. PLoS ONE*. 2022;17(11):e0277540. doi:10.1371/journal.pone.0277540
 - Fujita M, **Hatta T**, Ide K. Current status of cell-based interventions in Japan. *Cell Stem Cell*. 2022;29(9):1294-1297. doi:10.1016/j.stem.2022.08.003
 - Murata M, Kawabe K, **Hatta T**, Maeda S, Fujita M. Current status of umbilical cord blood storage and provision to private biobanks by institutions handling child birth in Japan. *BMC Med Ethics*. 2022;23(1):92. doi:10.1186/s12910-022-00830-8
 - Omura Y, Hirata M, Yoshimine T, **Nakatani E**, Inoue T. Development and evaluation of a new assistive device for low back load reduction in caregivers: an experimental study. *Sci Rep*. 2022;12(1):19134. doi:10.1038/s41598-022-21800-5
 - Funada S, Luo Y, Yoshioka T, Setoh K, **Tabara Y**, Negoro H, Yoshimura K, Matsuda F, Eftimiou O, Ogawa O, Furukawa TA, Kobayashi T, Akamatsu S. Development and validation of prediction model for incident overactive bladder: The Nagahama study. *Int J of Urology*. 2022;29(7):748-756. doi:10.1111/iju.14887
 - Kogo M, Sato S, Muro S, Matsumoto H, Nomura N, Tashima N, Oguma T, Sunadome H, Nagasaki T, Murase K, Kawaguchi T, **Tabara Y**, Matsuda F, Chin K, Hirai T. Development of airflow limitation, dyspnoea, and both in the general population: the Nagahama study. *Sci Rep*. 2022;12(1):20060. doi:10.1038/s41598-022-24657-w
 - Ikka T, Fujita M, **Hatta T**, Isobe T, Konomi K, Onishi T, Sanada S, **Sato Y**, Tashiro S, Tobita M. Difficulties in ensuring review quality performed by committees under the Act on the Safety of Regenerative Medicine in Japan. *Stem Cell Reports*. 2023;18(3):613-617. doi:10.1016/j.stemcr.2023.01.013
 - NCD Risk Factor Collaboration (NCD-RisC), Mishra A, Zhou B, Rodriguez-Martinez A, Bixby H, Singleton RK, Carrillo-Larco RM, Sheffer KE, Paciorek CJ, Bennett JE, Lhoste V, Lurilli MLC, Di Cesare M, Bentham J, Phelps NH, Sophia MK, Stevens GA, Danaei G, Cowan MJ, Savin S, Riley LM, Gregg EW, Ackplakorn W, Ahmad NA, Baker JL, Chirita-Emandi A, Farzadfar F, Fink G, Heinen M, Ikeda N, Kenge AP, Khang YH, Laatikainen A, Ma J, Monroy-Valle M, Mridha MK, Padez CP, Reynolds A, Soric M, Starc G, Wirth JP, Abarca-Gomez L, Abdeen ZA, Abdrahmanova S, Ghaffar SA, Abdul Rahim HF, Abdurrahmonova Z, Abu-Rmeileh NM, Garba JA, Acosta-Cazares B, Adam I, Adamczyk M, Adams RJ, Adu-Afaruwah S, Afana K, Afzal S, Agbor VN, Agepdeba IA, Aghazadeh-Attari J, Agucanau H, Aguiar-Salinas CA, Agyemang C, Ahmad MH, Ahmadi A, Ahmadi N, Ahmadi N, Ahmed I, Ahmed SH, Ahrens W, Aitmurzaeva G, Ajlouni K, Al-Hazzaa HM, Al-Lahou B, Al-Raddadi R, Al Hourani HM, Al Quoud NM, Alaroug M, AlBuhairan F, AlDhukair S, Aldwairji MA, Alexius S, Ali MM, Alkandari A, Alkerki A, Alkhatib BM, Allin K, Alvarez-Pedrerol M, Aly E, Amarapurkar DN, Etxezarreta PA, Amoah J, Amougou N, Amouyel P, Andersen LB, Anderssen SA, Androustos O, Ångquist L, et al. Diminishing benefits of urban living for children and adolescents' growth and development. *Nature*. 2023;615(7954):874-883. doi:10.1038/s41586-023-05772-8
 - Sato H, Fujita M, Tsuchiya A, **Hatta T**, Mori K, Nakazawa E, Takimoto Y, Akabayashi A. Disclosing a diagnosis of autism spectrum disorder without intellectual disability to pediatric patients in Japan in early diagnostic stages and associated factors: a cross-sectional study. *BioPsychoSocial Med*. 2022;16(1):18. doi:10.1186/s13030-022-00247-0
 - Nakamura M, Ogawa R, Fujimori J, Uzawa A, **Sato Y**, Nagashima K, **Kurivama N**, Kuwabara S, Nakashima I. Epidemiological and clinical characteristics of myelin oligodendrocyte glycoprotein antibody-associated disease in a nationwide survey. *Mult Scler*. 2023;29(4-5):530-539. doi:10.1177/13524585231156736
 - Tago M, Katsuki NE, **Nakatani E**, Tokushima M, Dogomori A, Mori K, Yamashita S, Oda Y, Yamashita S ichi. External validation of a new predictive model for falls among inpatients using the official Japanese ADL scale, Bedriddenness ranks: a double-centered prospective cohort study. *BMC Geriatr*. 2022;22(1):331. doi:10.1186/s12877-022-02871-5
 - Kawashima S, Yuno A, Sano S, Nakamura A, Ishiwata K, Kawasaki T, Hosomichi K, Nakabayashi K, Akutsu H, Saito H, Fukami M, **Usui T**, Ogata T, Kagami M. Familial Pseudohypoparathyroidism Type IB Associated with an SVA Retrotransposon Insertion in the GNAS Locus. *J of Bone & Mineral Res*. 2022;37(10):1850-1859. doi:10.1002/jbmr.4652
 - Ryu K, Fukutomi Y, **Nakatani E**, Iwata M, Nagayama K, Yano K, Nakamura Y, Hamada Y, Watai K, Kamide Y, Sekiya K, Araya J, Kuwano K, Taniguchi M. Frailty and muscle weakness in elderly patients with asthma and their association with cumulative lifetime oral corticosteroid exposure. *Allergy International*. 2023;72(2):252-261. doi:10.1016/j.allit.2022.10.005
 - Ikeda S, Saito S, Hosoki S, Tomonura S, Yamamoto Y, Ikenouchi H, Ishiyama H, Tanaka T, Hattori Y, Friedland RP, Carare RO, **Kurivama N**, Yakushiji Y, Hara H, Koga M, Toyoda K, Nomura R, Takegami M, Nakano K, Ihara M. Harboring Cnm-expressing *Streptococcus mutans* in the oral cavity relates to both deep and lobar cerebral microbleeds. *Euro J of Neurology*. Published online February 16, 2023;ene.15720. doi:10.1111/ene.15720
 - Hamada Y, **Nakatani E**, Nagahama T, Nagai K, Nagayama K, Tomita Y, Sekiya K, Taniguchi M, Fukutomi Y. Identification of asthma cases in Japan using health insurance claims data: Positive and negative predictive values of proposed discrimination criteria: A single-center study. *Allergy International*. Published online August 2022:S132389302200079X. doi:10.1016/j.allit.2022.07.001
 - Chen Z, Nonaka H, Onishi H, **Nakatani E**, Oguri M, Saito M, Aoki S, Marino K, Komiya T, Kuriyama K, Araya M, Tominaga L, Saito R, Maehata Y, Shinohara R. Impact of Systemic Autoimmune Diseases on Treatment Outcomes and Radiation Toxicities in Patients with Stage I Non-Small Cell Lung Cancer Receiving Stereotactic Body Radiation Therapy: A Matched Case-Control Analysis. *Cancers*. 2022;14(23):5915. doi:10.3390/cancers14235915
 - Kanatani Y, **Sato Y**, Nemoto S, Ichikawa M, Onodera O. Improving the Accuracy of Diagnosis for Multiple-System Atrophy Using Deep Learning-Based Method. *Biology*. 2022;11(7):951. doi:10.3390/biology11070951
 - Terada S, Satoh T, Endo S, Hawke P, **Nakatani E**, **Sato Y**, Yamamoto T, Kawaguchi S. Intratumoral Air Bubbles and Hematemesis as Predictors of Pseudoaneurysm Rupture in Unresected Pancreatic Cancer. *Intern Med*. Published online 2023:0856-22. doi:10.2169/internalmedicine.0856-22
 - Miyoshi T, Endo H, Yamamoto H, Shimada K, Kumamaru H, Ichihara N, **Miyachi Y**, Miyata H. Long-term prognosis and clinical course of choking-induced cardiac arrest in patients without the return of spontaneous circulation at hospital arrival: a population-based community study from the Shizuoka Kokuho Database. *BMC Emerg Med*. 2022;22(1):120. doi:10.1186/s12873-022-00676-8
 - Nagayama K, Fukutomi Y, **Nakatani E**, Hamada Y, Irie M, Azekawa K, Tomita Y, Watai K, Kamide Y, Sekiya K, Nakamura Y, Okada C, Shimoda T, Nagao M, Fujisawa T, Taniguchi M. Longitudinal changes in the prevalence of adult asthma: An epidemiological survey among Japanese salaried employees and their dependents using healthcare insurance claim from 1999 to 2019. *Allergy International*. 2023;72(2):245-251. doi:10.1016/j.allit.2022.11.002
 - Yoshikawa H, Adachi Y, Nakamura Y, **Kurivama N**, Murai H, Nomura Y, Sakai Y, Iwasa K, Furukawa Y, Kuwabara S, Matsui M. Nationwide survey of Lambert-Eaton myasthenic syndrome in Japan. *BMJ Neurol Open*. 2022;4(2):e000291. doi:10.1136/bmjno-2022-000291
 - Yoshino A, Kobayashi E, Tsuboyama T, Fukui H, Tomiyama N, Sato K, Morii E, **Nakatani E**, Komura N, Sawada I, Tanaka Y, Hori K, Yoshimura A, Takahashi R, Iwamiya T, Hisa T, Nishimura S, Kitai T, Yokota H, Shindo M, Miyata H, Hashimoto N, Sakiyama K, Abe H, Ueda Y, Kimura T. Novel Strategy for the Management of Cervical Multicystic Diseases. *Ann Surg Oncol*. 2023;30(5):2964-2973. doi:10.1245/s10434-022-13033-7
 - Nakazawa S, Fukai K, Furuya Y, Hoshi K, **Kojimihara N**, Toyota A, Korenaga M, Atemichi M. Occupational class and risk of hepatitis B and C viral infections: A case-control study-based data from a nationwide hospital group in Japan. *Journal of Infection and Public Health*. 2022;15(12):1415-1426. doi:10.1016/j.jiph.2022.11.005
 - Nakazawa S, Fukai K, Furuya Y, **Kojimihara N**, Hoshi K, Toyota A, Atemichi M. Occupations associated with diabetes complications: A nationwide-multicenter hospital-based case-control study. *Diabetes Research and Clinical Practice*. 2022;186:109809. doi:10.1016/j.diabres.2022.109809
 - Saito R, Yamamoto H, Ichihara N, Kumamaru H, Nishimura S, Shimada K, **Mori K**, **Miyachi Y**, Miyata H. Persistence of tolvaptan medication for autosomal dominant polycystic kidney disease: A retrospective cohort study using Shizuoka Kokuho Database. *Medicine*. 2022;101(4):e30923. doi:10.1097/MD.00000000000030923
 - Ishiyama H, Tanaka T, Saito S, Koyama T, Kitamura A, Inoue M, Fukushima N, Morita Y, Koga M, Toyoda K, **Kurivama N**, Urushitani M, Ihara M. Plasma mid-regional pro-adrenomedullin: A biomarker of the ischemic penumbra in hyperacute stroke. *Brain Pathology*. Published online August 2, 2022. doi:10.1111/bpa.13110

国内学会発表（代表発表者に限る）

【招待講演】

1. **山本精一郎** リスク層別化による乳癌検診の有効性を調べるには。Presented at: 第32回日本乳癌検診学会学術集会; November 11, 2022.
2. **山本精一郎** 胃癌検診の現状と未来。Presented at: 第95回日本胃癌学会; February 25, 2023.
3. **山本精一郎** 巷に溢れる栄養関連情報を科学的に斬る。Presented at: 第19回ヘルスプロモーション学会第11回日本産業看護学会合同学術集会/大会; November 26, 2022.

【シンポジウム】

1. **小島原典子** RLS診療ガイドライン—Minds診療ガイドライン作成マニュアル2020に沿った作成方法—。Presented at: 第40回日本神経治療学会学術集会; November 3, 2022.
2. **藤本修平** エビデンスの創出に向けた現状の課題。Presented at: 日本神経理学療法学会 第5回SIGs参加型フォーラム2023; March 4, 2023.
3. **白井健** 遺伝子variantの表記法。Presented at: 第55回日本小児内分泌学会学術集会; November 2, 2022.
4. **天笠崇** 過労死・過労自殺の現状と課題。Presented at: 過労死防止学会 第8回大会; September 2022. <https://www.jskr.net/2021/>
5. **小島原典子** 形成外科診療のガイドライン作成—Minds診療ガイドライン作成マニュアル2020を踏まえて—。Presented at: 第14回日本創傷外科学会総会・学術集会; July 2022.
6. **山崎清司** 死を語りあう。Presented at: 第15回HPS国際シンポジウム・研究大会; March 12, 2023.

【一般口演】

1. **田原康彦** 中谷英仁, **栗山長門** BMIと総死亡、要介護認定との関連—静岡スタディ—。Presented at: 第64回日本老年医学会学術集会; June 2, 2022.
2. **田原康彦** 岡田陽子, 越智雅之, 大八木保政, 伊賀瀬道也, クレアチニン・シスタチンC比は大腿筋量と筋内脂肪蓄積を反映する。Presented at: 第64回日本老年医学会学術集会; June 2, 2022.
3. **栗山長門** 尾崎悦子, 小山晃英, 松井大輔, 渡邊功, 榎谷優貴子, 和田瑞穂, 長光玲央, **田原康彦** 渡邊能行。ヒト骨密度における骨細胞osteocyteでの血中DMPIはFGF-23代謝に関連する。Presented at: 第81回日本公衆衛生学会総会; October 8, 2022.
4. **栗山長門** 尾崎悦子, 小山晃英, 松井大輔, 渡邊功, 榎谷優貴子, 和田瑞穂, 堀井基行, 大久保直輝, **田原康彦** 渡邊能行。ヒト骨密度測定における骨細胞osteocyteでの血中DMPIとFGF-23代謝の関連。Presented at: 第24回日本骨粗鬆症学会; September 3, 2022.
5. **栗山長門** 尾崎悦子, 松井大輔, 小山晃英, 渡邊功, 山田恵, **田原康彦** 水野敏樹, 渡邊能行。ロコモティブシンドローム（運動器症候群）（LS）と自律神経系の関連メカニズム。Presented at: 第9回日本サルコペニア・フレイル学会; October 29, 2022.
6. **栗山長門** 尾崎悦子, 小山晃英, 猪原匡史, 齊藤聡, 松井大輔, 渡邊功, 水野敏樹, 近藤正樹, 山田恵, 赤澤健太郎, 丸中良典, 高田明浩, **田原康彦** 渡邊能行, 上原里程。血管性認知症診断における脳血管内皮細胞型APP770の有用性。頭部MRIによる調査研究。Presented at: 第63回日本神経学会学術大会; May 2022.
7. **小島原典子** 重川希志依, 谷見, **渡田友里**, **天笠崇**, et al. 公衆衛生大学院における危機管理理論：カリキュラム作成と評価。Presented at: 第54回日本医学教育学会; August 2022.
8. **八田太一**, **森寛子**, **佐々木八十子**, 尾崎悦子, 土屋厚子, **栗山長門** 高齢者のCOVID-19ワクチン接種行動に関わる要因探索:静岡ワクチン接種研究1。Presented at: 第81回日本公衆衛生学会総会; October 8, 2022.
9. **山崎清司** 山下恵子, 松田聖一, 細萱絵里香, フロイド美穂。死別体験者の支援を目的に作成された小冊子のレビュー研究：「大切な人を亡くしたとき～長野県・中信地方版～」の改訂に向けて（経過報告）。Presented at: 第27回日本臨床死生学学会年次大会; September 17, 2022.
10. **栗山長門** 尾崎悦子, 松井大輔, 小山晃英, 渡邊功, 水野敏樹, 山田恵, **田原康彦** 渡邊能行。自律神経活動とロコモティブシンドローム（LS）の検討。Presented at: 第75回日本自律神経学会総会; October 28, 2022.
11. **田原康彦** 岡田陽子, 越智雅之, 大八木保政, 伊賀瀬道也。生体インビザンダンス法で測定した位相差は、大腿筋への筋内脂肪の蓄積と関連する。Presented at: 第64回日本老年医学会学術集会; June 2, 2022.
12. **田原康彦** 加藤倫卓, 岡田陽子, 中野渉, 高木大輔, 越智雅之, 大八木保政, 伊賀瀬道也, 静岡研究グループ。生体インビザンダンス法の位相角はCTで評価した大腿筋の筋内脂肪蓄積と関連する。Presented at: 第9回日本サルコペニア・フレイル学会; October 2022.
13. **田原康彦** 静岡スタディグループ。静岡県県データベースの分析結果からみた脳卒中発症の地域差とリスク因子。Presented at: 第10回臨床高血圧フォーラム; June 18, 2022.
14. **藤本修平** 地域リハビリテーションにおける満足度・継続可否と利用者の意思決定関与の関連性。Presented at: 第6回リハビリテーション医学会秋季大会; November 6, 2022.
15. **栗山長門** 尾崎悦子, 小山晃英, 猪原匡史, 齊藤聡, 松井大輔, 渡邊功, 水野敏樹, 山田恵, 赤澤健太郎, **田原康彦** 丸中良典, 佐治直樹, 富本秀和, 渡邊能行。脳室周囲白質病変（PVH）における脳血管内皮細胞型APP770の有用性:頭部MRIによる調査研究。Presented at: 第12回日本脳血管・認知症学会; August 6, 2022.

【講演・セミナー】

1. **高木明** 難聴児への早期介入の重要性と我が国の現状。Presented at: 第16回日本小児耳鼻咽喉科学会; July 8, 2021.

35. Hiromine Y, Noso S, Rakugi H, Sugimoto K, Takata Y, Katsuya T, Fukuda M, Akasaka H, Osawa H, **Tabara Y**, Ikegami H. Poor glycemic control rather than types of diabetes is a risk factor for sarcopenia in diabetes mellitus: The MUSCLES-DM study. *J of Diabetes Invest*. 2022;13(11):1881-1888. doi:10.1111/jdi.13882
36. Nishimura M, Toyama M, **Mori H**, Sano M, Imura H, Kuriyama A, Nakayama T. Providing End-of-Life Care for Patients Dying of COVID-19 and Their Families in Isolated Death During the Pandemic in Japan. *Chest*. 2023;163(2):383-395. doi:10.1016/j.chest.2022.10.009
37. Ikeda Y, Kawamura R, Takata Y, **Tabara Y**, Maruyama K, Takakado M, Hadate T, Ohashi J, Saito I, Ogawa Y, Osawa H. Resistin G-A haplotype at SNP -420/-358 is associated with the latent sarcopenic obesity index in the toon genome study. *J of Diabetes Invest*. 2023;14(5):686-694. doi:10.1111/jdi.13998
38. Anno M, Izawa S, Fujioka Y, Matsuzawa K, Saito K, Hikita K, Makishima K, Nosaka K, Takenaka A, **Usui T**, Yamamoto K. Retroperitoneal paraganglioma with loss of heterozygosity of the von Hippel-Lindau gene: a case report and review of the literature. *Endocr J*. 2022;69(9):1137-1147. doi:10.1507/endocrj.EJ21-0611
39. Ubukata N, **Nakatani E**, Hashizume H, **Sasaki H**, **Miyachi Y**. Risk factors and drugs that trigger the onset of Stevens-Johnson syndrome and toxic epidermal necrolysis: A population-based cohort study using the Shizuoka Kokuhō database. *JAAD International*. 2023;11:24-32. doi:10.1016/j.jdin.2022.12.002
40. Higashizono K, **Nakatani E**, Hawke P, **Fujimoto S**, Oba N. Risk factors for gallstone disease onset in Japan: Findings from the Shizuoka Study, a population-based cohort study. McGrowder DA, ed. *PLoS ONE*. 2022;17(12):e0274659. doi:10.1371/journal.pone.0274659
41. Umemiya M, Inayama Y, **Nakatani E**, Ito K, Tsuji M, Yoshida T, Yu S, Gou R, Horikawa N, Tani H, Kosaka K. Risk Factors for Septic Shock After Irinotecan-Containing Chemotherapy: An Exploratory Case-Control Study. *Drugs R D*. Published online August 20, 2022. doi:10.1007/s40268-022-00399-y
42. Higashizono K, Sato S, **Nakatani E**, Hawke P, Nagai E, Taki Y, Nishida M, Watanabe M, Oba N. Skeletal Muscle Loss During Neoadjuvant Chemotherapy Predicts the Incidence of Postoperative Infectious Complications in Esophageal Cancer Patients Undergoing Esophagectomy. *CDP*. 2022;3(1):67-74. doi:10.21873/cdp.10181
43. Matsumoto T, Murase K, **Tabara Y**, Minami T, Kanai O, Takeyama H, Sunadome H, Nagasaki T, Takahashi N, Nakatsuka Y, Hamada S, Handa T, Tanizawa K, Nakamoto I, Wakamura T, Komenami N, Setoh K, Kawaguchi T, Tsutsumi T, Morita S, Takahashi Y, Nakayama T, Sato S, Hirai T, Matsuda F, Chin K. Sleep disordered breathing and haemoglobin A1c levels within or over normal range and ageing or sex differences: the Nagahama study. *Journal of Sleep Research*. Published online November 27, 2022. doi:10.1111/jsr.13795
44. Morita Y, Ito H, Kawaguchi S, Nishitani K, Nakamura S, Kuriyama S, Ikezoe T, Tsuboyama T, Ichihashi N, **Tabara Y**, Matsuda F, Matsuda S. Systemic chronic diseases coexist with and affect locomotor syndrome: The Nagahama Study. *Modern Rheumatology*. Published online May 12, 2022:roac039. doi:10.1093/mr/roac039
45. Sato S, **Nakatani E**, Higashizono K, Nagai E, Taki Y, Nishida M, Watanabe M, Hawke P, Yokoyama J, Oba N. The impact of the American Society of Anesthesiology-Physical Status classification system on the treatment and prognosis of patients with esophageal cancer undergoing esophagectomy. *Int J Clin Oncol*. 2022;27(8):1289-1299. doi:10.1007/s10147-022-02190-0
46. Ekuban A, Shichino S, Zong C, Ekuban FA, **Kinoshita K**, Ichihara S, Matsushima K, Ichihara G. Transcriptome analysis of human cholangiocytes exposed to carcinogenic 1,2-dichloropropane in the presence of macrophages in vitro. *Sci Rep*. 2022;12(1):11222. doi:10.1038/s41598-022-15295-3
47. Ito Y, Katanoda K, **Yamamoto S**, Hamajima N, Mochizuki Y, Matsuo K. Trends in smoking prevalence and attitude toward tobacco control among members of the JCA in 2004–2017. *Cancer Science*. 2022;113(4):1542-1547. doi:10.1111/cas.15289
48. Yoshikawa H, Adachi Y, Nakamura Y, **Kuriyama N**, Murai H, Nomura Y, Sakai Y, Iwasa K, Furukawa Y, Kuwabara S, Matsui M. Taskforce of Validation of Evidence-based Diagnosis and Guidelines, and Impact on Quality of Life (QOL) in Patients with Neuroimmunological Diseases. Two-step nationwide epidemiological study of myasthenia gravis in Japan 2018. *Vall-Isoera Camps M*, ed. *PLoS ONE*. 2022;17(9):e0274161. doi:10.1371/journal.pone.0274161
49. Mochizuki L, Sano H, Honkura N, Masumoto K, **Urano T**, Suzuki Y. Visualization of Domain- and Concentration-Dependent Impact of Thrombomodulin on Differential Regulation of Coagulation and Fibrinolysis. *Thromb Haemostasis*. Published online October 28, 2022:s-0042-1757407. doi:10.1055/s-0042-1757407
50. 豊田章宏, 立道昌幸, **小島原典子**, 星佳芳. 15年間の死亡統計から学ぶ：全国労災病院病職歴データベースによる検討。日本職業・災害医学会誌 = *Japanese journal of occupational medicine and traumatology*. 2022;70(4):131-139.
51. 杉田翔, **藤本修平**, 小向佳奈子. 安価な簡易的徒手筋力計を用いた膝伸筋力における再現性の高い測定条件：一般化可能性理論を用いた検者間・検者内信頼性及び絶対信頼性の検討。地域理学療法学. 2022;早期公開.
52. 松村特司, **藤本修平**, 栗原靖. 小学生バドミントン選手の傷害特性：質問紙調査による横断研究. *Ritakuryohō Kagaku*. 2022;37(2):197-204. doi:10.1589/rika.37.197

総説（筆頭著者に限る）

1. **山本精一郎**, **清田友里** ナッジを用いたがん検診受診勧奨。日本医師会雑誌. 2022;151(5):805.
2. **小島原典子** 医療機関勤務環境評価センター 評価者養成講習テキスト 評価編：知識部分。医療機関勤務環境評価センター 評価者養成講習テキスト。July 2022.
3. **小島原典子** 希少疾患のガイドライン作成—Minds診療ガイドライン作成マニュアル2020を踏まえて—。神経治療学. 2022;39(4):453-457. doi:10.15082/jst.39.4_453

国際学会発表（代表発表者に限る）

【招待講演】

1. **Hatta T** Looking Back on the Thesis with Mixed Methods: Advancing Crossover Mixed Analysis and Rhetorical Style. Presented at: MMIRA Dissertation Award Focused Webinar; September 28, 2022.

【一般口演】

1. **Urano T** SSC Fibrinolysis: Introduction. Presented at: ISTH 2022 London SSC Fibrinolysis; July 21, 2022.
2. **Tabara Y** Urinary Na/K ratio as the risk marker for essential hypertension. Presented at: The 29th Scientific Meeting of the International Society of Hypertension; October 12, 2022.

SHIZUOKA GRADUATE UNIVERSITY OF PUBLIC HEALTH ANNUAL REPORT 2023

発行：静岡社会健康医学大学院大学 教務課（2024年3月）

〒420-0881 静岡市葵区北安東4-27-2

電話番号 054-295-5401

kyomu@s-sph.ac.jp

<https://s-sph.ac.jp>



本学アニュアルレポートはWebサイトでもご覧になれます。

<https://s-sph.ac.jp/disclosure/corporate/plan>

表紙：本学の外観

2021年2月に教育棟及び附属棟が、翌2022年2月に研究棟が竣工して間もないことから、近代的で清潔感あふれる施設・設備が好評です。

